

第 11 回紀南養護専攻科を考える会 研究集会 2/3

「障がい者にも進路選択の拡大を！」とのスローガンで、「高校卒業後 20 歳までの教育の延長」を訴えている「紀南養護専攻科を考える会」（会長 出口幸三郎）は、「県立専攻科設立」を目標に研究する団体で、全国で初めて「福祉型専攻科」を田辺市に「学ぶ作業所 フォレスクール」として開設した団体でもあります。



その第 11 回目の研究集会が、2 月 3 日田辺市のホテルハナヨにて、「フォレスクール設立 10 周年記念」もかねて開催されました。保護者、教員、福祉職員等、障がい者にかかわる方を中心に、79 名もの例年になく大勢の参加者となりました。

第一部では、「10 年目のフォレスクールの仲間たち！」と題した、利用者達による研究発表と、アイデアを凝らしたダンスで、会場を爆笑に誘っていました。



第2部では、「先駆県和歌山から『学びの作業所』を語る！」～10年目の今！福祉型専攻科の本音バラシます！～と題したフォーラムを、コーディネーター小畑耕作氏（大和大学講師・きのかわ福祉会理事長）パネラーとして阪東 俊忠氏（奈良県：ジョイアスクールつなぎ みやこいち福祉会）、池田 普子氏（シャイン きのかわ福祉会）、谷畑 久美氏（ラ・ポルテ 有田ひまわり福祉会）、榎本 恵理氏（フォレスクール ふたば福祉会 たなかの杜施設長）、そして共同研究者として鈴木 三喜氏（ふたば福祉会 常務理事）の6名が登壇し熱いディスカッションを展開しました。

このパネラーの皆様は、先駆的に各地で福祉型専攻科を運営している施設の代表者で、実際に利用者に接する現場にも携わっています。「なぜ、この事業を開いたか！」「手ごたえのあった取り組み」など、「仲間の変化・育ちのエピソードや実践」なども、苦労・失敗談もふくめ、思いを込めて発表しました。会場からも、質問や意見が多く出て、約1.5時間があったという間に過ぎるほど、熱く盛り上がり、障がい者の青年期教育の大切さを確認し、締めくくりました。

この会で会長より、「当会目標の教育施策による専攻科への挑戦は、フォレスクールが先陣を切ることで、全国に設立された多くの「福祉型専攻科」が受け継ぎ、さらに強いうねりとなって進められています。当会にとって一応の歴史的な役割を果たしたと考え、本日をもって解散をする運びとなりました。理念・権利は、フォレスクールをサポートする団体フォレスクール支援会（会長出口幸三郎）にすべて移管しますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願いします。長年、ご理解・ご協力頂き、心より感謝致します。」と発表がありました。